

WE  
LOVE

July 2021  
地域医療支援学レター

vol.  
36



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告  
リレートーク第36回
- 20年後のあなたへ  
安来市立病院  
病院長 水澤 清昭 先生





# 活動報告

令和3年3月19日(金)10:00~12:00

## 地域医療体験実習Ⅰ (春季地域医療体験実習)報告会(Web開催)

地域医療体験実習Ⅰの報告会をZoomのブレイクアウト機能を用い、オンラインで行った。参加した28名の学生(1年15名、2年10名、3年3名)、保健所・島根県関係者、教員等で5つの部屋を作り、学生のリーダーを中心に、「印象に残った体験」「島根の地域医療の良いところ・課題」「島根の地域医療の課題と解決策」について話し合った。同じ県内であっても圏域の特殊性からそこでの気付き・学びは多岐で、情報を共有しあう姿はオンラインとはいえ、非常に活発に行われた。



医師の高齢化や地域偏在、医療格差等の課題に対し、総合診療専門医の必要性や多職種連携等の解決策が挙がった。臨地で体験を通して得た気付きや学びはこれからの学習の過程で意味付けられ、様々なことが線となって繋がっていくことを期待したい。

令和3年4月6日(火)13:30~13:50

## 地域枠等特別選抜枠新入生 島根県副知事表敬訪問

【場 所】島根県庁6階講堂  
【参加者】地域枠等特別選抜枠新入生13名、教員4名

4月6日、県庁に島根県副知事を表敬訪問した。この訪問は、将来、島根県の地域医療に貢献することを期待されている学生が副知事を表敬し、激励を受けることで、学業及び地域勤務に対する意識の醸成及び向上を図ることを目的としたものである。



式典は、最初に佐野教授より今回の訪問の趣旨及び入学生の紹介があり、続いて3名の学生が、これからの学生生活や卒後の地域貢献について決意表明を行った。松尾紳次副知事からは、高い志をもって入学した学生達を称賛する言葉が贈られ、島根県の医療及び医師不足の現状や学生への支援についてお話があった。最後に充実した学生生活を送るよう激励を賜り、改めて特別選抜枠の学生としての自覚を一人一人新たにしたいと思われた。



令和3年5月22日(土)

## 第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 オンライン開催 学生セッション 祝 2部門最優秀発表賞受賞

学生セッションの研究部門と活動報告部門において、島根大学医学部医学科6年の西川香澄さんと医学科6年の白鳥博之さん(SiPS代表)がともに最優秀発表賞を受賞した。昨年の研究部門最優秀発表賞に続く2年連続の快挙である。

西川さんは総合診療勉強会の参加学生が現在総合診療に対して抱くイメージと在学中の変化を探索することを目的に「総合診療教育における医学生が感じる理想と現実の乖離:質的研究」を発表した。座長からは、ぜひ論文として世に出してほしいとコメントがあった。

白鳥さんは、SiPSの活動内容と成果を報告し今後の展望を述べることを目的に「学生が主導で多職種連携を実践するSiPSの立ち上げと活動~コロナ禍の1年を振り返って~」を発表した。座長からは組織立った取り組みに感嘆のコメントがあった。



令和3年4月6日(火)9:15~11:45

## 松江市民病院・松江生協病院・ 松江赤十字病院見学

【参加者】地域枠等特別選抜枠新入生13名、教員他8名

地域枠等特別選抜枠の新入生が島根県副知事を表敬訪問するのに併せ、午前松江市内実習施設の3病院を見学させて頂いた。

松江市民病院では安部睦美先生に、松江生協病院では高演顕弘病院長にそれぞれ病院のご紹介と質問を受けて頂き、新入生に激励を頂いた。学生達にとっては、医学生になって初めて聞く医療現場の話であり、緊張した様子が見受けられたが、「未来のお医者さんたちに」と贈られたガンバレエールに顔がほころび、これからの学習のモチベーションに繋がるものを感じられた。松江赤十字病院では、屋上のヘリポートにご案内頂き、病院の概要をお話し頂いた。松江市内はもとより大山から三瓶山まで大パノラマが広がり、学生達にとっては心象風景として心に強く残ったと思われる。



## しまね総合診療センター ~Teal型組織 Neural GP Network~

厚生労働省の「総合的な診療能力を持つ医師養成の推進事業」に基づき2020年度末に島根大学医学部附属病院総合診療医センターが設置されました。コンセプトとして地域の総合診療医が医学教育にかかわります。2021年度は、常勤の和足孝之副センター長に加え、月は隠岐病院の加藤一朗と小田川誠治が隔週、火は浜田市あさひ診療所長の上野伸行、水は奥出雲病院の遠藤健史、木金は私白石吉彦が週に2日センターで勤務する形をとっていきます。ミッションとしてへき地・離島を含む全ての地域の住民が安心して過ごせるよう優秀な総合診療医を育成し、持続可能な医療を提供し続けます。ビジョンはヒエラルキー並びに組織間の壁の無い総合診療医育成の為にネットワークを作り、様々な場所からリアルタイムで教育・研究・臨床のサポートを行います。



しまね総合診療センター長 白石 吉彦 <https://shimanegp.com/>

令和3年5月29日(土)14:00~18:10

## 2021年度総合診療専攻医 合同オリエンテーション

【参加者】対面21名・Web25名

記念講演として、白石吉彦先生に「これから総合診療を始める君たちへ」と題してお話し頂き、多くのメッセージが新専攻医に贈られた。

次に先輩専攻医として島根県立中央病院の坂口公太先生が、ダークサイドに落ちないためには視座を高めグローバルな視点を持つ事が必要とアドバイスされた。

家庭医療集中講義では、高橋賢史先生より「患者中心の医療技法」についてレクチャーを受け、指導医専攻医を交えてグループ単位で活発な討論・発表が行われた。

閉会式には、しまね総合診療センターのチーフプレジデント4名とチーフコンサルタント1名の任命式が行われ、白石センター長より任命書が手渡された。コロナ禍で2年ぶりの開催となったが、新専攻医の先生方がこの会を切っ掛けに、良いスタートが切れることを願いたい。



# セミナー報告

SEMINAR REPORT



## 総合診療医の役割

【実施日】令和3年4月19日(月)18:00~19:00  
【講師】島根大学医学部総合診療学講座  
大田総合医育センター講師 木島 庸貴 先生  
【参加者】14名

概要

先生は大学病院での診療経験はもとより、現在大田市立病院と診療所で診療に携わられている。総合診療専門医の定義を具体的に示され、加えてプライマリ・ケアの5つの理念を説明頂いた。その上で、現在先生が診療されている場の役割の違いと、そこに受診する患者の特徴をお話し頂き、総合診療医の立ち位置の違いがあることを学んだ。また、個人の健康問題に及ぼす影響の数は生物学的側面だけを診ては解決しえない「扱う問題の広さと多様性」があること、中でも「総合医療医としてのケアする力」や「自分のアンテナ力の質の向上」という言葉が印象に残った。

講演終了後、学生からも多数の質問が寄せられ、誠実に丁寧に答えて下さる先生のお人柄に触れて、学生達の総合診療医に対する関心はさらに高まったものと思われる。

## 地域医療Webinar



## 在宅医療と肺炎

在宅での新型コロナ感染症への対応と疾患終末期の肺炎の緩和ケア

【実施日】令和3年5月17日(月)18:00~19:00  
【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 研修研究センター長 平原 佐斗司 先生  
【参加者】14名

概要

新型コロナウイルス感染症の第4波が到来する中、在宅医療最前線の現場からお話し頂いた。在宅医療は、末期がん患者の緩和ケアや非がん疾患・高齢者のEOL等に加えて、近年医療にアクセスできない人へのアウトリーチの重要性が高まっているようである。先生はコロナ対応も感染症に端を発した災害と捉えていると話され、在宅緩和ケアの中心が認知症を核としたmultimorbidityの高齢者に移りつつある中、医療にアクセスできない高齢者が増えていることを危惧されていた。

在宅医療では、終末期最大の苦痛である肺炎症状に強い緩和ケアのニーズがあり、高齢者に多い誤嚥性肺炎と新型コロナウイルスによる肺炎について、症例を通して治療の実際をご教示頂いた。また、肺炎によるサルコペニア嚥下障害や認知機能の悪化等に対し、積極的なリハビリテーションの必要性等多く学びを得た。



## 地域で働く ~こんな時あなたはどうしますか~

【実施日】令和3年6月8日(火)18:00~19:00  
【講師】浜田市国民健康保険あさひ診療所 所長 上野 伸行 先生  
【参加者】20名

概要

先生は2症例を提示され、学生に「こんな時どうしますか」と問いつけ、対話をしながら双方向型で進められた。

症例から、総合診療医は疾患だけに焦点を当てるのではなく、病を持ったその人に向き合い、病が個々の生に及ぼす影響も含めて対象を総合的に捉えることが大切であるとご教示頂いた。医学的に捉える疾患は個人から臓器・組織・細胞の方向にベクトルを伸ばすが、総合診療医は、疾患は押さえた上で、個人・家族・地域へのベクトルを持ち、地域全体の健康問題に関わることの重要性を図て示された。

最後に、医師として医学を学び続けなければ、患者さんは安心して地域で過ごすことはできない。その人の価値観や背景にあるものを知って、その人にとって何が一番幸せなのか考えながら診療することが地域で働く醍醐味であると締めくくられた。

## Career Webinar



【実施日】令和3年4月20日(火)12:15~12:45  
【講師】島根大学医学部附属病院感染制御部 専任医師 城有美 先生  
【参加者】15名

概要

先生は高校時代、自身が交通事故にあわれた経験から医師を志し、島根大学に入学された。「外傷医になりたい」と初期臨床研修後、3次救急を扱う救急救命センターで研修され、重症患者や熱傷の患者さんを診ながら感染症と戦い、「免疫・感染って面白い!」と興味をひかれていったそうである。

島根に戻りER→総合診療→血液内科と専攻されていったが、中でも感染症の管理の重要性と面白さに気付かれる。様々な科を専攻されるも、根底には感染症との戦いやその興味がつきることなく現在へ繋がっているのだと感じた。

先生は現在、救急医、血液内科のダブルボードで専門医を取得されている。自身の興味を深めて、ベストな選択をする生き方が素敵と感じた学生も多いであろう。



【実施日】令和3年5月10日(月)12:15~12:45  
【講師】島根大学医学部附属病院高度脳卒中センター 教授 林健太郎 先生  
【参加者】13名

概要

学生に伝えたいこととして、2部構成で1部は前任地の長崎と医療に関する歴史、2部は先生がキャリアをどのように積まれてきたのか、その転機となった出来事からメッセージを頂いた。

1部で歴史から学ぶメッセージとして印象に残ったのは、ボンベの医の真髓を教えた言葉「(略)医師は自分自身のものではなく、病める人のものである。(略)」と、島根県出身の永井隆博士の「如子愛人」の精神であった。

最後に、キャリアとは僅かな手段ではなく、其々のステップでベストを尽くした結果であるとまとめられ、中でも記録の重要性=論文と異文化に触れる留学を勧められ、業績が物語るtake-home messageであった。



【実施日】令和3年6月14日(月)12:15~12:45  
【講師】島根大学医学部眼科学講座 医員 持地美帆子 先生  
【参加者】8名

概要

持地先生は滋賀県のご出身で、ご主人の転勤を機に2017年島根県に移住された。1児の母親・妻・大学院生・眼科医の4つの顔を持ちながらも、子育てと仕事を上手に両立されている。

先生は、医師になった理由・なぜ眼科医に・結婚の決め手・大学院へ入学を決めた理由・子育てと仕事の両立・人生プラン等全7項目について、とてもフランクにお話し頂いた。

いずれの役割にも、ご自分のエネルギーを上手に配分し、心に余裕を持たせておられることに感心した。また、なりたい姿やありたい自分を実現するために、自ら動き周囲の協力を獲得して実現されるパワーにも魅了された。多忙な医療現場における女性医師のワークライフバランスの一例をお示し頂き、学生には自分のライフイベントとキャリアデザインを考える上で見本のCareer Webinarになった。





安来市立病院  
病院長  
水澤 清昭 先生

これまで団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年に着目した地域包括ケアシステムの構築などの制度改革が推進されてきました。しかし、今般では人口構成が激変し、特に生産人口の減少が加速し、高齢者人口が4000万人とピークに達し、総人口の3分の1を越えると推計されている2040年に着目した制度改革へとシフトしてきています。

高齢者の増加は、医療や介護を総合的に提供する施設の需要増加をおこす一方で、高度で専門的な治療技術を提供する施設の集約化がさらに促進されると考えられます。これからの20年で、病院のあり方が大きく変わってきます。病院が変われば当然、医師に求められる働き方やキャリア形成の考え方も変わってきます。高度な専門技術を持った医師の少数精鋭化が進む一方で、複数の疾患や健康上の問題を抱える患者を総合的に診ることのできる総合診

療医のニーズは高まるばかりです。総合診療医は地域医療遂行のキープレイヤーです。医療技術習得には研修し経験を積む必要がありますが、院内の多職種や地域の幅広い職種、そして地域住民とつながる技術、姿勢を学ぶことが最も大切だと考えます。20年後のあなたに期待しています。



安来市立病院  
〒692-0404 島根県安来市広瀬町広瀬1931  
TEL:0854-32-2121 FAX:0854-32-2125

第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会オンライン開催  
学生セッション 研究部門・活動報告部門最優秀発表受賞コメント

「総合診療教育における医学生の感じる理想と現実の乖離:質的研究」

医学科6年 西川香澄さん

この度は、名誉ある賞を頂き、大変光栄に思っております。熱心にご指導して頂いた先生方や、インタビューに協力して下さいました学生の皆様へ心より感謝申し上げます。この研究を通して、総合診療に対して医学生が抱えているイメージの本質に迫ることができ、今回の発表で沢山の方々へ伝えることができたこと、大変嬉しく思っております。この研究で明らかとなった医学生の声は、今後の総合診療教育にとって非常に意味のあるものになったと思っております。今回の受賞を励みにして、今後もより一層精進していきたいと思っております。



「学生が主導で多職種連携を実践するSiPSの立ち上げと活動～コロナ禍の1年を振り返って～」

医学科6年 白鳥博之さん

今回は、栄誉ある賞を頂き本当に嬉しく思います。この賞は、発表者が1人で行ったことでも成し遂げたことでもありません。スライド作成から発表原稿の作成にあたってメンバーと共に、発表の前日、夜まで話し合い、多くの人の想いや関わりを何よりも大事にしました。そして、この賞をもらうために活動しているわけではなく、今回をきっかけにまた新しい取り組みに繋がるのではないかとワクワクしています。これからもSiPSを宜しく願います。



今後の予定

Career Webinar

令和3年7月15日(木)12:15~12:45

講師:大拙 孝治 先生  
島根大学医学部精神医学講座 講師

令和3年9月6日(月)12:15~12:45

講師:長井 篤 先生  
島根大学医学部内科学講座内科学第三 教授

CHECK

地域医療Webinar

令和3年7月20日(火)18:00~19:00

講師:松本 賢治 先生  
飯南病院 医長/来島診療所 所長

令和3年8月26日(木)18:00~19:00

講師:坂口 公太 先生  
島根県立中央病院総合診療科 医長

令和3年9月3日(金)18:00~19:00

講師:齊藤 稔哲 先生  
気仙沼市立本吉病院 病院長

総合診療医ブラッシュアップセミナー

令和3年8月1日(日)10:00~12:00

講師:椎名 浩昭 先生  
島根大学医学部附属病院 病院長  
講師:白石 吉彦 先生  
しまね総合診療センター センター長

総合診療専門医プログラム説明会

令和3年8月1日(日)13:30~16:30

講師:太田 龍一 先生  
雲南市立病院 診療局地域ケア部長/健康管理センター 副所長

地域医療体験実習I (夏季地域医療体験実習)

令和3年8月16日(月)~8月20日(金)

研究室配属

令和3年8月30日(月)~10月1日(金)

